

桜川市のシンボル「山桜」に対する人々の意識調査を実施

サクラの栽培品種ソメイヨシノが普及するまで、日本人にとって最も身近なサクラは山桜（野生のサクラ類）でした。茨城県桜川市は「西の吉野、東の桜川」と並び称されるほど、古くから山桜の名所として知られており、日本一の山桜の里を目指した取り組みが進められています。

山桜をシンボルとしたまちづくりを進めていくためには、山桜に対する地域の人々の意識を把握することが重要です。そこで本研究では、①地元集落の住民、②桜まつりの訪問者、③桜川市内の高校に通う生徒、を対象にアンケート調査を実施しました。

その結果、どのグループでも「春の景観的価値」を最も重要だと認識していることが分かりました。さらに、このような価値が感じられやすい場所は、高峯、磯部稲村神社、雨引観音など、山桜の景観が美しいことで有名な地域に集中していました。また、GIS（地理情報システム）を用いた解析を行ったところ、クヌギやコナラといったナラ類が生育する森林や、地形の急峻な場所において、山桜の価値がより強く感じられる傾向がみられました。こうした場所は、山桜の生育しやすい環境条件ともよく一致しています。桜川市では、ナラ類と山桜が混在する里山が広がっており、森林の伐採と利用の歴史を経て、山桜の景観が維持されてきました。山桜をシンボルとしたまちづくりには、こうした里山を今後も適切に保全することが重要と考えられます。

本研究結果は、自然と共生したまちづくりを進めるための指針になると期待されます。

研究代表者

筑波大学生命環境系

佐伯 いく代 准教授

研究の背景

茨城県桜川市は「西の吉野、東の桜川」と並び称されるほど、歴史的に山桜の名所として知られており、日本一の山桜の里を目指した地域づくりが進められています（図 1）。山桜とは、ヤマザクラ (*Cerasus jamasakura*) とカスミザクラ (*C. leveilleana*) を合わせた野生のサクラ類のことを指します。栽培品種であるソメイヨシノ (*Cerasus × yedoensis* (Matsum.) Masam. et Suzuki 'Somei-yoshino') が普及する以前は、日本人にとって、山桜が最も身近なサクラでした。

山桜をシンボルとしたまちづくりを進めていくためには、山桜に対する地域の人々の意識を把握することが重要です。そこで本研究では、地域の人々が山桜からどのような価値を感じているのかについて、①山桜の名所として知られる桜川市磯部地区および平沢地区（地元集落）の住民、②2020年春に桜川市磯部稲村神社で開催された桜まつりの訪問者（主として桜川市外の住民）、③桜川市内の高校に通う生徒、を対象にアンケート調査を実施しました（図 2）。

研究内容と成果

アンケート調査は、2020年4月から11月にかけて、地元集落の住民には郵送で（n=73；回答率40%）、また桜まつりの訪問者（n=70）と高校生（n=178）には対面方式で実施しました。その結果、どのグループでも、桜川市の山桜の価値として、「春の景観的価値」を最も重要だと認識していることが分かりました（図 3）。さらに、この「春の景観的価値」が感じられやすい場所は、高峯、磯部稲村神社、雨引観音などの山桜の景観が美しいことで有名な地域に集中していました。また、GIS（地理情報システム）^{注1}を用いた解析を行ったところ、山桜の価値がより強く感じられやすい場所は、クヌギやコナラといったナラ類が優占する森林や、地形の急峻な場所に集中するという結果が得られました。こうした場所は、山桜の生育しやすい環境条件ともよく一致しています。桜川市では、ナラ類と山桜が混在する里山が広がっており、森林の伐採と利用の歴史を経て、攪乱^{注2}に強い山桜の森林景観が維持されてきました。山桜をシンボルとしたまちづくりには、こうした里山を今後も適切に保全し、多くの人々が山桜の価値を感じられるような森づくりを進めることが重要と考えられます。

一方、アンケートを実施した3つのグループ間には、山桜の価値の感じ方にやや違いがあることも分かりました（図 4、5、6）。例えば、生物多様性、教育、桜川らしさの象徴としての価値を感じられる場所として、地元集落の住民は山桜の景観で有名な場所をあげる傾向がありましたが、桜まつりの訪問客では、筑波山系を中心とした広い地域に分散して示されました。また、高校生は、市街地にある観光資源に近い場所で価値を感じるという回答が多く得られました。これは、山桜の名所や春の景観の美しさに関する情報が、若い世代には十分に知られておらず、通学圏に近い場所に回答が偏在したものと考察されます。地域全体で森づくりに取り組むためには、環境教育などを通じた情報提供の在り方も検討する必要があります。

今後の展開

本研究は、山桜という日本人にとってなじみ深い樹木について、地域の人々が実際にどのような価値を感じているかを明らかにするとともに、実際に山桜の価値が感じられやすい場所と環境要因との関係性について分析した初めての事例です。自然と共生したまちづくりを進めるためには、人々が、自然から得られる恵み（生態系サービス）を感じつつ、それを大切に利用していこうとする行動が必要です。本研究手法は、地域の自然がもつ生態系サービスを活かしたまちづくりに役立つと期待されます。



図1 桜川市高峯における山桜の景観。



図2 桜川市磯部稲村神社におけるアンケート調査の様子。

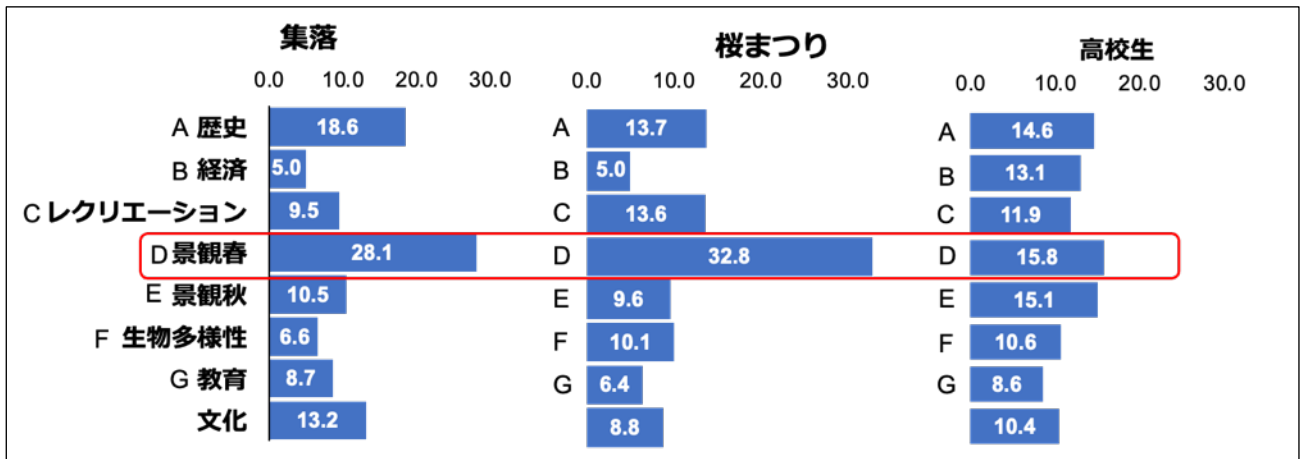


図3 アンケート調査「山桜が生育している桜川市の森林から得られる価値として考えられるものを、あなたにとっての重要度に応じて、0%~100%の値を割り当ててください(全ての項目を合計して100%になるように)」という問いへの回答結果の比較。左：地元集落の住民、中央：桜まつりの訪問者、右：桜川市内の高校に通う高校生。いずれも、8項目のうち「D 景観春（春の景観的価値）」を重視する傾向がみられる。

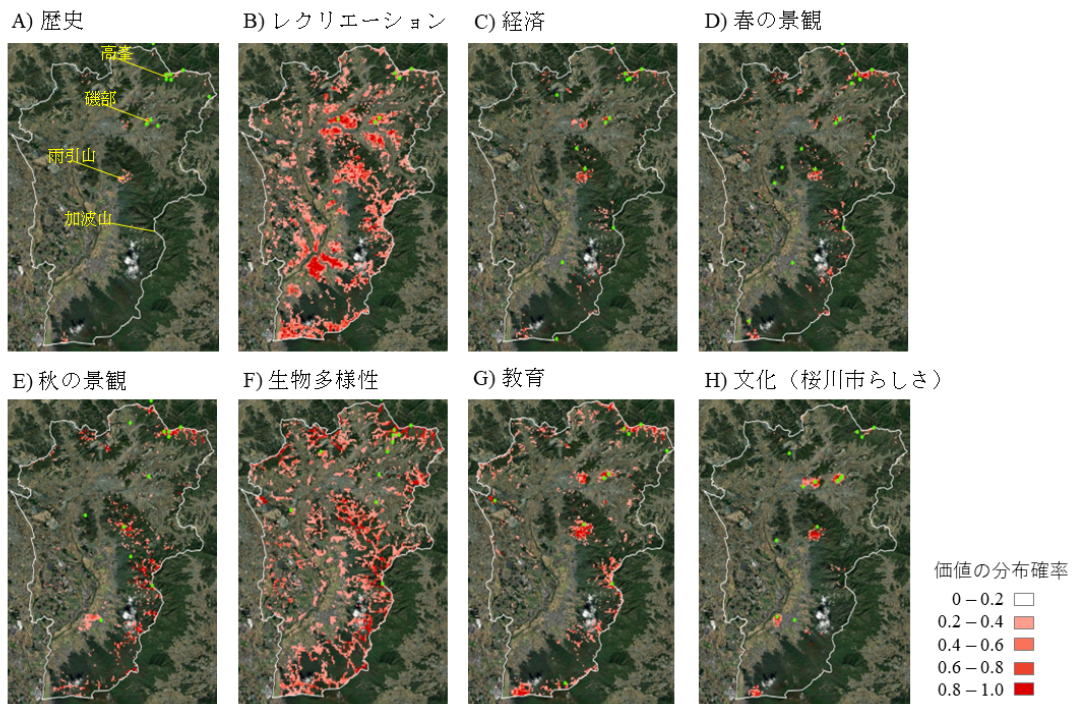


図4 地元集落の住民を対象としたアンケート結果をもとに、桜川市内で山桜の価値が感じられやすい場所を予測した図。8種類の価値についてそれぞれ解析した。赤色が濃い地点ほど、価値が強く感じられやすい場所であることを示す。

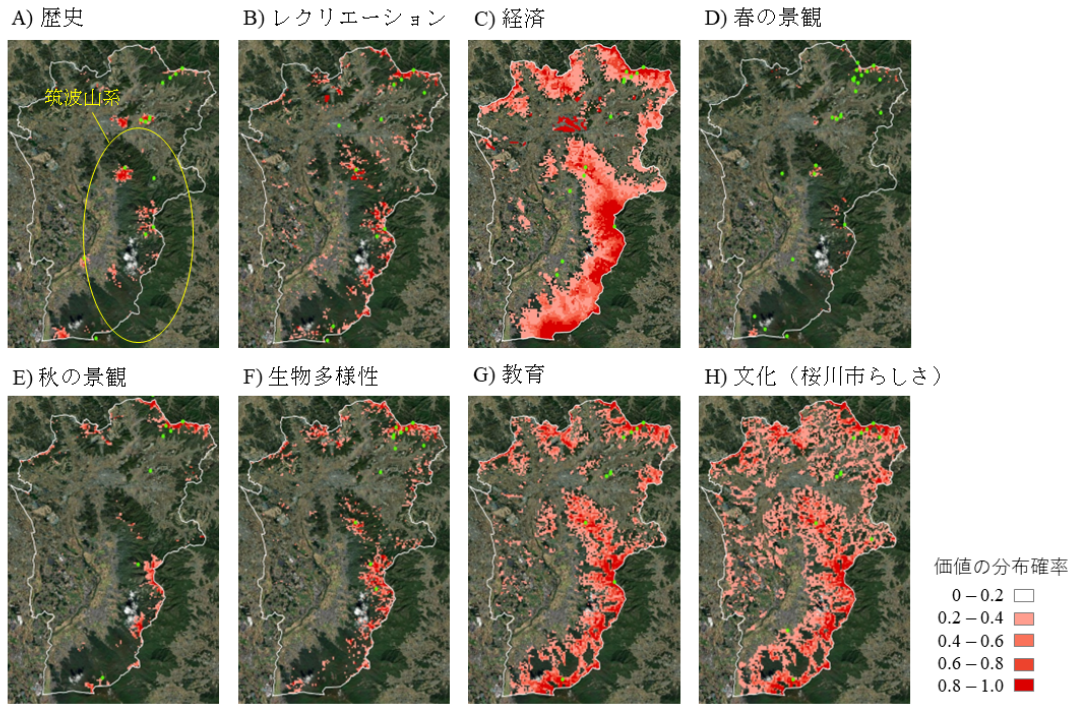


図5 桜まつりの訪問者を対象としたアンケート結果をもとに、桜川市内で山桜の価値が感じられやすい場所を予測した図。8種類の価値についてそれぞれ解析した。赤色が濃い地点ほど、価値が強く感じられやすい場所であることを示す。

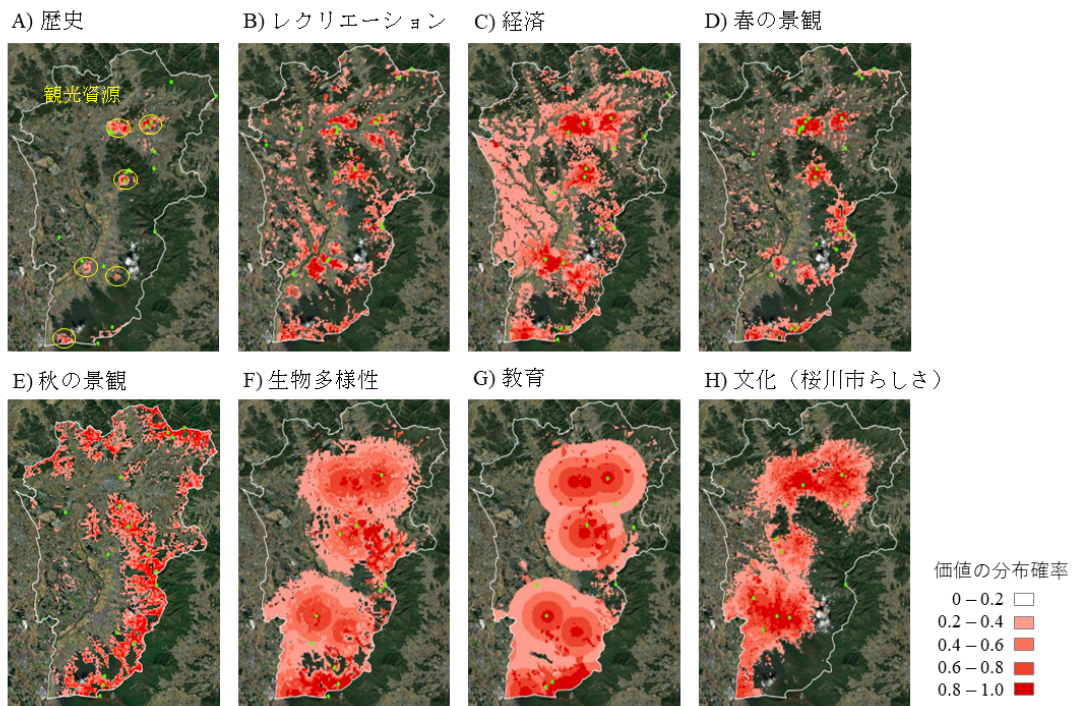


図6 桜川市内の高校に通う高校生を対象としたアンケート結果をもとに、桜川市内で山桜の価値が感じられやすい場所を予測した図。8種類の価値についてそれぞれ解析した。赤色が濃い地点ほど、価値が強く感じられやすい場所であることを示す。

用語解説

注1) GIS (地理情報システム)

位置に関する情報を持ったデータ (空間データ) をコンピューター上で統合し、分析するための技術。

注2) 攪乱

台風や山火事、森林の伐採などによって比較的短い時間で顕著に自然生態系の様相が変化すること。

研究資金

本研究は、筑波山地域ジオパーク学術研究助成金 (2019 年度) の助成を受けて実施されました。

掲載論文

【題 名】 Local perception of ecosystem services provided by symbolic wild cherry blossoms: toward community-based management of traditional forest landscapes in Japan.

(シンボル種「山桜」がもたらす生態系サービスへの地域の人々の評価：コミュニティーを主体とした我が国の伝統的な森林景観の管理に向けて)

【著者名】 Katsuda, K, Saeki I, Shoyama K, Kamijo T

【掲載誌】 Ecosystems and People

【掲載日】 2022 年 5 月 12 日 (オンライン公開)

【DOI】 <https://doi.org/10.1080/26395916.2022.2065359>

問合わせ先

【研究に関すること】

佐伯 いく代 (さえき いくよ)

筑波大学生命環境系 准教授

URL: http://www7b.biglobe.ne.jp/~rubra/Rubra_02_sub8_profile.html

<https://trios.tsukuba.ac.jp/researcher/0000003558>

<http://www.u.tsukuba.ac.jp/~kawada.kiyokazu.gu/index.html>

【取材・報道に関すること】

筑波大学広報局

TEL: 029-853-2040

E-mail: kohositu@un.tsukuba.ac.jp